

チューリップの花芽分化状況について(7月 24 日現在)

令和 8 年 7 月 27 日
経 営 普 及 課
(農業革新支援担当)

新潟県農業総合研究所園芸研究センターのチューリップ花芽定期観測結果から、今年の花芽分化及びノーズの伸長状況について主要 3 品種のデータを紹介します。

1 供試球根

農業総合研究所園芸研究センター本場（砂壤土）産球根

品種（系統）	掘取日	調査サイズ	初期乾燥	貯蔵
プレルジューム（T）	6 月 10 日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵
イルデフランス（SL）	6 月 10 日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵
メリーウィドー（T）	6 月 10 日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵

2 花芽分化の状況

- （1）プレルジュームとイルデフランスでは、花芽分化段階・ノーズ長とも前回（7 月 17 日）調査から停滞して進んでいない。現時点では、分化段階は平年に比べ 1 ～ 2 段階程度早く、ノーズ長は同 1 ～ 3 週間程度早く伸長している。
- （2）品種別の花芽分化段階は、プレルジュームでは内雄ずい分化期（A2）～雌ずい分化期（G2）で、平年に比べて 2 週間程度早い。イルデフランスは内雄ずい分化期（A2）～柱頭分化完成期（G3）に達し、同 2 週間程度早い。メリーウィドーは外花被分化期（P1）～外雄ずい分化期（A1）で、同 1 週間程度早い。
- （3）平均ノーズ長は品種により 2.6～4.2mm で、プレルジュームは平年に比べて 1 週間程度、イルデフランスは同 2 ～ 3 週間、メリーウィドーは同 3 週間程度それぞれ早く伸長している。

3 年次別りん片含水率（7 月 10 日定期調査）

花芽分化開始条件の一つであるりん片含水率は、メリーウィドーで 57.3%、プレルジュームで 55.5%、イルデフランスで 56.9%と、いずれの品種も平年に比べてやや低く、水分の抜けは良い。

4 今後の技術対応等

- （1）花芽分化の進展は、今後の気温等によって変動が予想されるため、促成切り花栽培に向けた冷蔵計画の策定に当たっては、必ず花芽を確認し、無理のない計画とする。
- （2）近年、夏季の猛暑が常態化していることから、年内切り花出荷を予定している球根では、調整等の準備が整い次第、中温処理（冷蔵庫内で 20℃涼温管理）を行うことが望ましい。その際は、エチレングスによる障害を防止するため、腐敗球の除去を徹底し、十分な換気に留意する。

5 具体的データ

添付ファイル「T260724data（花芽）」参照

※ 次回の生育情報は、7 月 31 日調査のチューリップ花芽分化（第 5 報）をお知らせする予定です。